研究主題

学習を調整し、他者と協働しながら、たくましく学ぶ生徒の育成 ～学習指導と学習集団づくりの一体的な充実を通して～

<研究主題を具現化した生徒の姿>

- ・個々の学習状況に応じて、学習課題や学習形態を選択しながら学び、達成感や充実感を味わっている姿
- ・仲間や教師等と対話をしながら、課題解決に向けた方途を見出そうとしている姿
- ・解決が難しい課題に対しても、あきらめることなく、解決に向けて粘り強く取り組んでいる姿
- ・生徒自身が「目指す授業の姿」を明確にもち、その具現に向けて主体的に活動している姿

<研究仮説>

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る学習指導と、生徒の主体性を引き出す学習集団づくりを一体的に充実させることで、自らの学習を調整し、他者と協働しながら、たくましく学ぶ生徒が育つであろう。そしてそれは、予測困難な時代を生き抜くことができる人間を育成することにつながるであろう。

研究内容

視点A 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る学習指導の在り方

- (1) 課題追究の場における指導・援助の工夫
- (2) ICTの効果的な活用法の追究

【具体的方途】

- ・教科部会の充実→指導方法の具体を定め、実践、検証する。PDCAサイクルの確立。
- ・グループ研究会の実施→教科ごとに3つのグループに分け、互いの授業を参観する。
 - 〈グループA〉国語科、社会科、美術科
 - 〈グループB〉数学科、理科、技術家庭科
 - 〈グループC〉英語科、保健体育科、音楽科
- ・ICT活用勉強会の実施→ICTの基本操作や活用例等を教師が学ぶ場を積極的にもつ。

視点B 生徒の主体性を引き出す学習集団づくりの在り方

- (1) 年間指導計画の工夫と意図的・計画的な指導実践
- (2) 授業リーダー（学習委員・教科係）に対する指導・援助の工夫

【具体的方途】

- ・研究推進委員会と学習指導部が中心となり、学習集団づくりの年間指導計画を年度当初に策定し、見直しをもって指導にあたる。現状を把握し、必要に応じて計画の見直しを図る場を年4回設定する。
- ・学習指導部会との連携→学習委員と共に考える、学習のステップ。
授業における、学習委員と教科係の役割の明確化。
- ・特活指導部会との連携→学級づくり（学級目標づくり、班組織の運営等）と学習集団づくりの関連性を明らかにした職員会提案と学年部の確実な見届け。
- ・校内研修の充実→学級集団づくりについての研修会の実施（メンター会議と連携を図る）。

- ・視点A及び視点Bを踏まえ、研究主題にどこまで迫れているかを確かめ合う全校研究会
- ・校長をはじめとする管理職の指導助言
- ・研究推進委員長及び教務主任による、通信等での実践紹介及び研究推進の啓発